

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2292200017
法人名	社会福祉法人 湖成会
事業所名	グループホーム あった家
所在地 (電話番号)	〒419-0303 静岡県富士郡芝川町大鹿窪151-1 (0544-67-0011)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月13日

## 【情報提供票より】(平成20年8月25日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	15 人
常勤	7 人
非常勤	4 人
常勤換算	10.2 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円 実費			

### (4)利用者の概要(平成20年 8月25日現在)

利用者人数	15 名	男性	0 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	9 名	要介護4		2 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	池田クリニック、村野歯科医院、湖山病院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霊峰富士山を仰ぎみる地に建てられたホームは、平屋建てでゆったりした広さがあり、環境的に恵まれている。また、隣接して同一法人が経営するディサービス百恵の郷と特別老人ホームが併設されていることは利用者、家族にとっても利用しやすい場ともなっている。管理者、職員は地域密着型サービスを目指しており、利用者の社会性を重視した日々のケアは随所に何われ、特に併設の施設を利用した地域住民との交流が盛んに行われてもいる。運営面では職員の質的向上には特に力を入れており、研修・勉強会の充実、向上心アップの自己目標の設定などを通じて、利用者と共に寄り添い喜怒哀楽を共に過ごし合う姿勢はホーム内が明るい雰囲気にも包まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員とも評価の意義をよく理解しており、評価を行う一連の過程を通じて気づいた点は改善あるいはケアサービスの質を高めるための取り組みを一步一步確実に実行している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の割り定期的に開催されており、出席者も町会議員、地区代表者等多士済々で、ホームの運営・活動報告・事故報告に続き、意見交換・情報・アドバイス等が話し合われている。また、サービス向上につながる事項については、職員間に伝え共通認識を持つ取り組みがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等からの意見、苦情については、苦情受付担当責任者を設けて対処しているほか、家族会や運営推進会議あるいは家族等の来訪時には意見などを聞き、これを職員間で話し合い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の祭りや防災訓練、町内の会合、祝い事の行事など積極的に参加し、また、施設主催の夏祭りには、地域の人達も招いたりして交流を深める支援が行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体の10か条からなる運営理念を基にして、地域との密接な関わり合いの中で、利用者が安心して生活ができるような支援体制を柱とした事業所の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回開催される会議において、自己設定目標と共に理念の共有化を図るための話し合いが行われており、管理者・職員の言葉かけ、態度、記録等からも日々取り組んでいる姿が見られる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の祭りや防災訓練、町内の会合、祝い事の行事など積極的に参加し、また、施設主催の夏祭りには地域の人達も招いたりして交流を深める支援が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも、評価の意義をよく理解しており、評価を行う一連の過程を通じて、気づいた点は改善あるいはケアサービスの質を高めるための取り組みを一步一歩確実にやっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割りで定期的開催されており、出席者も町会議員、地区代表者等多士済々で、ホームの運営・活動報告・事故報告に続き、意見交換・情報・アドバイス等が話し合われている。また、サービス向上につながる事項については、職員間に伝え共通認識を持つ取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定申請の際などに町役場の担当課に出向いたり、月1回の介護相談員との意見交換を行ない、お互いに連携を深める取り組みをしている。また、役所の担当者と「認知症を支える在宅家族の会」の設置に向け話し合いが行われており、早期に実現できることを期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に請求書や預り金記録シートを送付する際、日々の暮らしぶりの一コマを写真にした用紙に行事案内や担当者が一筆箋を入れて報告している。また、家族等の訪問時においても日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見、苦情については、苦情受付担当責任者を設けて対処しているほか、家族会や運営推進会議あるいは家族等の来訪時には意見などを聞き、これを職員間で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動は、併設施設への1名のみであるが、利用者に対しては十分説明し納得を得ている。なお、退職者がある場合には、利用者へのダメージを少しでも少なくするため引継ぎをしっかりと行うなど、現状に即した対応策を講じている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員ごとに毎月スキルアップするための目標を選択させて、その結果を評価、反省し、サービスの質の向上に役立たせているほか、外部研修への積極的参加を支援し、研修内容の共有化を図っている。また、法人内においてもリーダーシップ勉強会や資格取得勉強会などを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者とは、2ヶ月に1度の割りで開催されている富士宮・芝川介護保険事業連絡協議会に参加して、他の同業者との情報を交換し質の向上に役立たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、体験入居をしていただいたり、馴染みの物を持ち込み環境の整備を家族と共に行っている。また、職員間で話し合いの上、職員による声かけや雰囲気づくりに配慮して信頼関係を築く対応を行っており、入居後の退去者の事例はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員、利用者といった介護する側、される側といった垣根を取り外し、お互いに生活をエンジョイし、喜怒哀楽を共に分かち合う関係づくりを実践するため、管理者、職員は共通認識を持って日々のケアに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向を日々の暮らしの言葉の中から見つけ出そうと努力している。会話が不自由な場合などはその方の生活歴、家族の話などから希望、意向を汲み取ろうとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の入居時の介護計画は、事前に関係者と話し合いを持ち作成している。入居後も細やかに利用者の日々の生活を介護日記に記録しケアカンファレンスに生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はたとえ利用者に変化が見られなくても6ヶ月毎に見直しを行い、更新・追加を行っている。また、利用者に変化が見られた場合はその都度サービス担当者会議を開催し介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者の「併設のデイサービス施設の利用は顔パスでOKです。」という言葉通り、併設されている在宅介護支援施設と良好な関係が築かれている。緊急時の受診支援なども行っており、柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の状態・状況により、かかりつけ医を決定している。近隣の池田クリニックの協力もあり往診体制も確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合の話し合いは家族等と持たれているが、文章化された明確な指針は利用者・家族等と共有されていない。	○	事業所として明確な終末期のあり方を利用者、家族、かかりつけ医等と話し合い、明確な指針として文章化されたものを関係者皆で共有することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録等の個人情報は事務室に厳重に管理されている。職員は利用者の尊厳を最も重要と考え、利用者個々に言葉使いに注意し対応している。一覧表となった家族等の面会記録が玄関口に置かれている。	○	家族等の面会記録は他人に感知されないように工夫し(例えば利用者個別の面会簿)、利用者、家族等のプライバシーの保護が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は偶然女性ばかりであるが、思い思いにおしゃれを楽しんでおり、また、居間に新しい畳の香る和室があることから昼食後、そこで昼寝を楽しむ利用者もいるなど、各々が自己にあった暮らしぶりができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕の食事は施設内の台所で職員、利用者が共に調理しているが、昼の主菜は併設の施設にて調理されている。自家菜園で取れた茄子のお新香も食卓に上るなど、食事に彩を添えているが、職員は持参したそれぞれのお弁当を食していた。	○	茄子の副菜がとてもおいしかっただけに、利用者・職員が共に作ったものを同じテーブルで食されること望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	檜の香る清潔感の漂う浴室である。利用者の生活暦に合わせて夜間入浴等にも対応、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の食事作りの味付けや雑巾等の縫い物をする利用者もおり、職員がそれぞれ企画した月見会等の行事を催すことを利用者、職員が嬉々として話す姿はとても微笑ましく、気晴らし等の支援も十分に行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設は田園地帯にあり、買い物できる店も少なく、買い物などの希望は少ない。散歩等は時間を決めず思い思いに支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員皆が鍵をかけることの弊害をよく理解している。徘徊等も度々経験している職員はそれを止めることなく、理由があると理解し、施設連絡用の携帯電話を片手に利用者と話し合うなど、見守りを徹底して鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と共同し昼夜の訓練を行っている。施設にはスプリンクラーが設置されており、なおかつ平屋建ての為、施設面での防災対策も良好である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取食事量や水分量は記録に残されている。併設の施設の医師・訪問看護師の指導も受けており、栄養、健康面での支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体がとてもゆったりと設計されており、対面式の台所から続く広い居間と和室はとても心地良い。近くの芝川の流れる音と、施設から望むことのできる周りの田園風景は利用者の心を和ませるものとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真が飾られている部屋もあり、使い慣れた鏡、小物入れなどが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境となっている。また、ホームは平屋建てで広々としており、ゆったりとした様子であるが、廊下、居室には手すりが取り付けられていなかった。	○	外部評価での利用者アンケートにおいて、廊下の壁に伝え歩きが出来る手すりの設置を望む声もあることから、転倒防止の安全策としての対応が望まれる。